

小さな勇気が切り開く未来

栃木市立栃木南中学校

篠木陽太 3年

僕たちの学校では、6時間目の後に、清掃
があります。しかし、きれいにしたばかりの
床にゴミが落ちていたりすることがあります。それ
だけでなく、ゴミの上を何人も人が通って
いくのです。

「みんな、本当に気がつかないのかな？」
僕は、疑問に思いながらも、気付かないな

ら仕方がないと、そのゴミを片付けました。
でも、そのようなことが何度か続くと、ゴ
ミが落ちていているのは偶然では無い、何か理由
があるはずだ、と考えるようになりました。
そんな思いで教室の中を見渡してみると、
教科書やノートの山積みになったロッカーが
目にとまりました。落ちるギリギリまで荷物
が積みまれている状況では、いくら床をきれいに
清掃しても、新たなゴミが落ちてしまいま
す。普段から、机やロッカーの不要なもの

捨てて整理整頓するよう言われているのです。か、徹底されていなかったのです。ゴミが散らかりやすい状態にあること、そして、落ちている状態にも無自覚であることが、ゴミを生み出していたのです。

他にも、体や荷物がぶつかって、きれいにそろっていた机がずれても、そのまま帰ってしまう。光景をよく見かけます。自分が動いた後がどんな状況になっっているのかというところを、全く意識していないのだと思います。

僕は、周囲に目を配り、気が付いた時には、すぐにゴミを捨てたり、机の列を直したりしていきます。それは、僕が行動することであえて言葉にしなくても、変えていけるものがあると思います。教室の乱れに、本当に気が付かない人もいます。しょう。気が付いていても気が付かないふりをしている人達もいる。と思います。そんな無関心な人たちの、気が付かないままでも大丈夫という気持ち、僕の行動で、変えていくことができるのでは

ないかと思うからです。

「無関心」。これは教室の中だけの問題では
ありません。なぜなら、いつも通る道にも、
川にも、ゴミや吸い殻が落ちているからです。
ひどい時にはゴミ捨てを罰すると書かれた着
板の前に、ゴミがあることも目にします。こ
うなるとわがとなのかと残念に思います。
そんな中、土手の草刈りやゴミステーション
の清掃を自主的にやっている人もいます。
また、近くの公園の金網の補修や清掃を一人

でしているおじいさんがいることも知ってい
ます。そのおじいさんを見た時、申し訳ない
ような気持ちといっしょに「すごいな」と
いう気持ちも湧いてきました。皆のために一
人で黙々とゴミを拾う姿を、すばらしいと思
いました。そのおじいさんの姿に影響され、
僕も、夏休みと冬休みの家庭科の宿題として、
「犬の散歩をしながらゴミ拾い」を実施しま
した。おじいさんから僕に「ゴミ拾いの心が
伝わったからです。」

7 まり、場所や規模は違っても、誰か気が
 付いた人が、一人でも行動を起こせば、きつ
 と何かか誰かに伝わっていくというここの
 だと思えます。もし、学校のような生徒が大
 勢いる場で、皆が周囲に目を向け、実践して
 いくようになってきたら、その広がりはとても
 大きなものになると思います。最初は、「工
 ミを捨てない」「整理整頓」など小さなこと
 の積み重ねでも、やがては、「物事に関心を
 持つ」「環境を大切にす」「という発想に育
 てることもできるでしょう。

8 皆が自分の周りの環境を整備していけば、
 自然に点と点がつながり面になるからです。
 僕の家近所では、雪が降った時に一軒が雪
 かきを始める。と次々に雪かきが始まります。
 作業は大変ですが、終わったときに、近所の
 人と顔を見合わせて、「きれいになったね」
 と言いかう瞬間は、結構充実感があります。
 点と点がつながる時は、とても気持ちのいい
 ものです。

このように、誰かが気付き行動を起こせば、次の誰かに広がっていきます。僕は最初の一人になることを恐れずに、勇気を持ち、積極的に行動していきたいと思います。